

研究分野のキーワード：日本語教育，外国にルーツを持つ子ども達，第二言語習得，第一言語習得，ビジネス日本語

研究紹介

私は、日本の公立の学校に通う外国にルーツを持つ子ども達が、どのようにしたら日本語での教科学習をスムーズに進められるかという問題を中心に研究しています。もともとは、大人の外国人の日本語習得に興味があり、日本語教育に携わっていました。ある市の日本語教室で講師をしていた時、外国人の女性が小学生になる自分の子どもを連れてきて、「この子は学校では日本語が分からなくて一日中座っているだけ。友達もできないから、学校に行きたくないとっている。この子と一緒に日本語を勉強させてください」と言いました。大人対象の日本語教室なので、大変困りました。このことがきっかけで、外国にルーツを持つ子ども達の日本語習得に関わる研究をはじめました。子ども達は1、2年日本にいと、日本人の子ども達と変わらないくらい日本語が流暢になります。けれど、日本語での教科学習（国語、算数、理科、社会・・・）は、長年日本にいても、難しいのが現状です。ここで、一つ質問です。皆さんは下の質問の答えをどのように考えますか。

質問：日本生まれ、または幼少期に来日した外国にルーツを持つ子ども達と10歳ぐらいで来日した子ども達では、どちらが日本語での教科学習に問題がないでしょうか？

この質問の対して、大学生の多くも「日本で生まれていたり、小さい時に日本に来た子どもの方が有利に決まっている」と答えます。けれど、そうではないケースが多いのです。どうしてでしょう。時間があったら考えてみてください。もちろん、様々なケースがありますから、日本生まれや幼少期に来日した子どもでも教科学習が問題なく進む子どもも多くいます。このような様々な問題を取り上げ、どうしたら外国にルーツを持つ子ども達が日本語での教科学習内容の理解ができるようになるかを研究しています。

また私のもう一つの研究分野は、留学生が日本で就職活動や就職後にどのような日本語が必要とされるという、ビジネス日本語というものがあります。今後どんな日本語が日本人から評価されるのかなど、調査したいと考えています。